

1-1 日本とその周辺の地震活動（2017年11月～2018年4月）

Seismic Activity in and around Japan (November 2017 - April 2018)

気象庁

Japan Meteorological Agency

今期間、日本とその周辺でM5.0以上の地震は70回、M6.0以上の地震は9回発生した。このうち最大のもは、2018年2月7日に台湾付近で発生したM6.7の地震である。また、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（M9.0、最大震度7、以下「東北地方太平洋沖地震」と呼ぶ）の余震が、前期間に引き続き、岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生した。2017年11月～2018年4月のM5.0以上の地震の震央分布を第1図(a)及び(b)に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

(1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2018年4月14日04時00分に根室半島南東沖の深さ53kmでM5.4の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）は北西－南東方向に張力軸を持つ正断層型である。

(2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2017年11月13日07時24分に三陸沖の深さ11km（CMT解による）でM6.0の地震（最大震度2）が発生した。この地震は日本海溝の海溝軸東側の太平洋プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）は北西－南東方向に張力軸を持つ正断層型である。

2018年1月24日19時51分に青森県東方沖の深さ34kmでM6.3の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

2018年2月26日01時28分に福島県沖の深さ40kmでM5.8の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

今期間に東北地方太平洋沖地震の余震域で発生したM5.0以上の地震は8回、M5.5以上の地震は3回であった。

(3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2017年11月16日18時43分に八丈島東方沖でM6.0の地震（最大震度3）が発生した。また、この地震の北北東で、2018年3月25日23時37分にM5.8の地震（最大震度3）が発生した。これらの地震の発震機構（CMT解）は、それぞれ西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型及び西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、いずれの地震も太平洋プレート内部で発生した。

2017年12月6日00時13分に長野県中部の深さ10kmでM5.3の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の震央は、糸魚川－静岡構造線断層帯（中北部区間）の北端部付近に位置している。

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2018年4月9日01時32分に島根県西部の深さ12kmでM6.1の地震（最大震度5強）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の震源断層は、発震機構と震源分布から、北北西－南南東方向に延びる左横ずれ断層と考えられる。この地震の発生以降、今回の震源付近で地震活動が活発になり、4月30日までに最大震度1以上を観測する地震が47回（最大震度5強：1回，最大震度4：4回，最大震度3：4回，最大震度2：14回，最大震度1：24回）発生した。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

熊本県熊本地方及び阿蘇地方における「平成28年（2016年）熊本地震」の一連の地震活動は、全体として引き続き減衰しつつも継続している。今期間における最大規模の地震は2018年4月28日に熊本県熊本地方で発生したM3.6の地震（最大震度2）である。今期間に震度1以上を観測した地震は59回（最大震度3：1回，最大震度2：16回，最大震度1：42回）発生した。

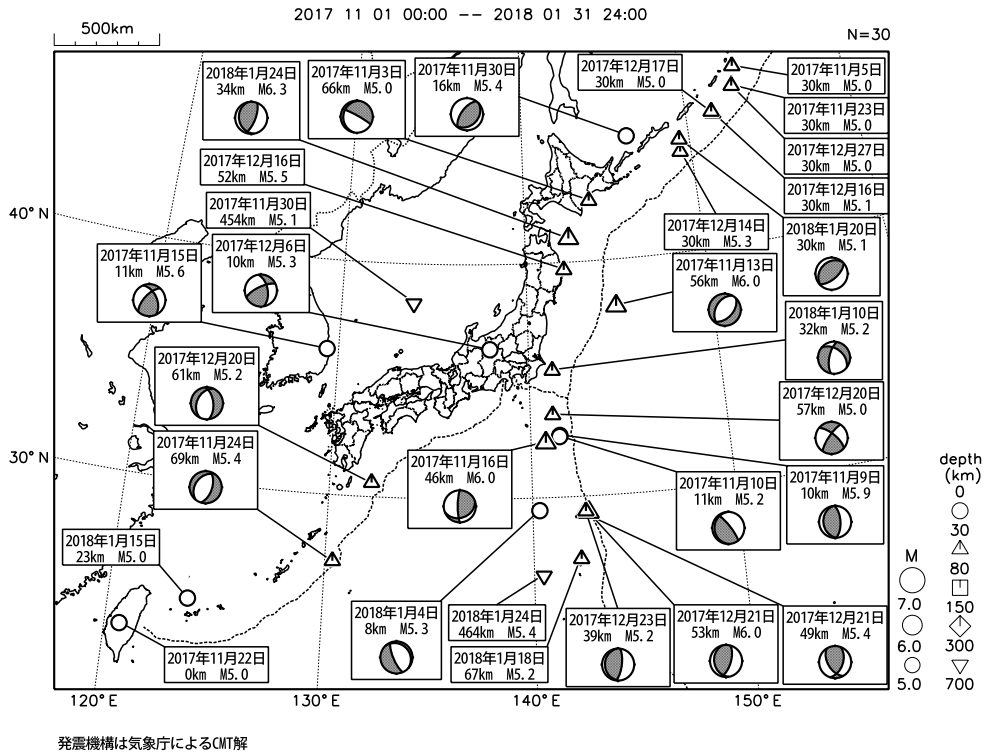
(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2018年2月4日22時56分に台湾付近でM6.5の地震（日本国内で最大震度2），7日00時50分にはM6.7の地震（日本国内で最大震度2）が発生した。これらの地震を含め、M6.0以上の地震が4回発生した。規模の大きかった4日22時56分の地震と7日00時50分の地震の発震機構（CMT解）は、それぞれ北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型，南北方向に圧力軸を持つ型である。

2018年3月1日22時42分に西表島付近でM5.6の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震は、陸のプレートの地殻内で発生した。発震機構（CMT解）は北東－南西方向に張力軸を持つ型である。この地震の発生以降、地震活動が活発な状態で推移し、この地震を含めて5月13日までに震度1以上を観測する地震が47回（最大震度5弱：1回，最大震度3：4回，最大震度2：9回，最大震度1：33回）発生した。

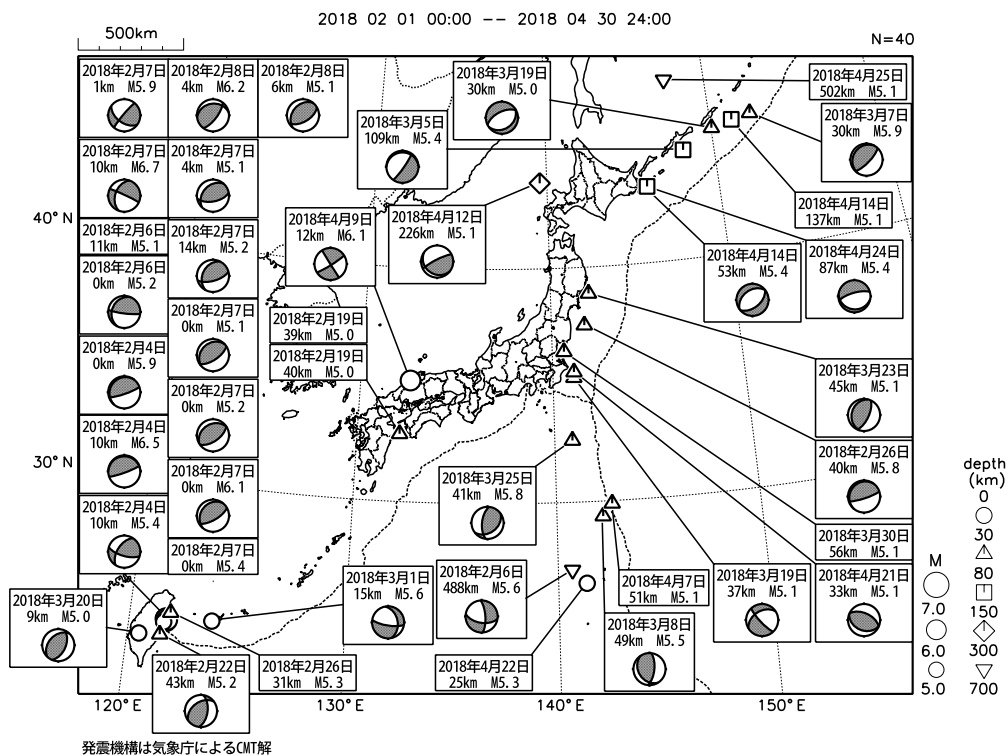
なお、本巻の気象庁作成資料は、特段の断りがない限り、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。2016年4月1日以降の震源では、Mの小さな地震は、自動処理による震源を表示している場合がある。自動処理による震源は、震源誤差の大きなものが表示されることがある。

日本とその周辺の地震活動 (2017年11月~2018年1月、M \geq 5.0)



第1図(a) 日本とその周辺の地震活動 (2017年11月~2018年1月, M \geq 5.0, 深さ \leq 700km) .
 Fig.1(a) Seismic activity in and around Japan (November 2017 – January 2018, M \geq 5.0, depth \leq 700 km).

日本とその周辺の地震活動 (2018年2月~4月、M \geq 5.0)



第1図(b) つづき (2018年2月~4月, M \geq 5.0, 深さ \leq 700km) .
 Fig.1(b) Continued (February – April 2018, M \geq 5.0, depth \leq 700 km).